

### 3位

題名 いつ、会えるかな

謝逸翔（シャイツショウ）台湾 早稲田大学

あの頃のことを一生忘れません。今でも目を閉じれば、あの時に戻れるのではないかと思います。私は当時、恋をした。その恋は竜巻のように私を襲い、私を巻き込み、どこまでも私を連れて行った。どうしたってあらいようのない恋だった。

あの夏休みに、アメリカのイエローストーン国立公園でアルバイトをしました。そのとき、同じ職場に勤めていた、日本人の亜紀さんという女の子と知り合いになりました。亜紀さんに一目惚れした私は、毎日毎日言葉を交わしたり、一緒に遊んだりして、どんどん亜紀さんに近づき、ついに夢が叶って、恋人になりました。イエローストーン国立公園のあちこちに私たちの足跡が残っているかもしれません。でも、楽しい時間は儂いものです。やがて、別れの日が来ました。私は台湾へ、彼女は日本へ帰ることになりました。しかし私は、彼女との「バリアフリー空間」が造れると信じていました。

帰国後、亜紀さんに、電話は少なくとも、週に一回、Eメールは毎日出していました。ところが、彼女の態度はだんだん冷たくなり、話も途切れるようになったのです。もしかして、心変わり？と、いう疑いが心に浮かびました。案の定、ある日の電話で、「ほかに好きな人がいるから、ごめんなさい」と、亜紀さんは言いました。振られてしまった私は、辛くて辛くて、何をやる気にもなりません。でも、その一方で自分を励まし、「僕は絶対に負けないぞ。今に見ている。」と、闘志を燃やし、真剣に暮らそうと決心しました。きっと、日本に行って、もっと美しい大和撫子を探してやるぞ。

その後、毎日大学の講義を受けたあと、日本語を三時間ずつ勉強し始めました。休みの日に友達に誘われても、家で日本のドラマを見たり、NHKのニュースを見たり、日本の音楽を聴いたりして、強引に自分を全日本語の環境に押し込めました。そうしているうちに、まるで神様がずっと私の努力と祈りを見ていたかのように、私の日本語が徐々に進歩してきました。

今の自分にとって、日本語がかけがえのないものになりました。母国語の中国語、第一外国語の英語のみならず日本語の学びを通して異なる視点から、物事を考えることができるようになり、視野が一段と広がりました。日本語を勉強して本当によかったと心の底からそう思っています。一体、誰が私をこういう風に変えたのか。ああ、すべて亜紀さんのおかげで第二外国語が身についたのです。努力が必ず報われるとずっと思っている私は、日本文部省の国費奨学金を受けて今年の四月から大学院の勉強でついに来日してしまいました。いつ、会えるかな。もし君にめぐりあったら、恨みじゃなくてお礼を言いたいです。ありがとう、亜紀。